

議会報告会の概要

- 【参加者】 自主財源、依存財源の内訳を教えてください。ふるさと納税の収入がどのくらいだったのか、ふるさと納税に関する寄付や返礼品金額などの収支について教えてください。
- 【委員】 自主財源、依存財源の詳細な数値はこの場ではわからないが、ふるさと基金寄付金は4,845万7,081円で増えており、事務費として計上されている。茅ヶ崎市は返礼品については高額なものではなく、返礼品に係る費用は4,718万となっているので差額が事務費となる。その他、業務委託料として1,563万9,909円が計上されている。ふるさと納税の経費は1,700万円であり、控除額は2億2,000万円であった。その内75%は交付金で市に戻るが、収支としては3,900万円のマイナスであった。議会としても問題視している。
- 【参加者】 病院事業会計について、議会は承認しているが繰越欠損が39億、累積は50億となっていて会社でいえば破産の状態です債務超過状態となっている。議会は今後も承認するのか。原因を調べ経営の立て直しが必要ではないか。なぜ承認したのか。
- 【委員】 欠損金については、議会の総括質疑でも話題となり病院長含め担当者の答弁を求めた。原因は診療報酬の事情と看護師、医師が公務員であることから人件費が支出として大きい。今後については、病院の計画に基づき粛々と進めていくが抜本的に変えなければいけないと副市長からも答弁を頂いている。また、一般会計の繰出金も厳しく、減少してきている。市立病院が抱える不採算部門も公立病院として必要であるため、今後厳かにかけて抜本的に変えていくと答弁があり議会として承認した。
- 【参加者】 ベッドの稼働率が低すぎる。藤沢市は90パーセントと高い。茅ヶ崎市も10パーセント上げられれば10億くらいは収支が上がる。経費を差し引いても6億は増えるはずだが、見解を問う。
- 【委員】 ベッドの稼働率の悪さは、医業収支が良くない原因の1つである。国の基準で必要な看護師の不足などが影響してベッドの稼働率が上がらない現状がある。今後、急性期病院としての体制を見直す予定である。また、欠損については除却損が膨らんでいるため、29年度の決算特別委員会で、きつく執行部へ申し上げた。これからもしっかりとチェックしていく。
- 【参加者】 市の財政が厳しい中、なぜホノルルとの交流に関して予算が拡充になっているのか。姉妹都市については考え直すべきではないか。
- 【委員】 国内での姉妹都市の関係は、防災協定及び災害協定を結んでいる町や、ゆかりのまちなど関係を持つ町はいくつかある。佐久市、関ヶ原町、ひたちなか市、富士市、市川市、岡崎市などである。ホノルルとは子どもたちの交流など、教育分野において成果を出してきている。行政、議会ともに友好都市として育てており、商工会議所の方々も将来を見据えて、現地へ訪問するなど積極的に活動され、順調に進んでいると考えている。